



年間第 19 主日 (ヨハネ 6:41-51)

あなたの手は命のパンを受け取る形になっているか

聖母被昇天直前の日曜日、暑くもあるし、今日か明日か気になることもあるし、説教は短めにしたいと思います。

何かを手にする時、先を争って手にしようとする場合と、順番に沿っていただいたりする場合とでは、手の出し方が違うと思います。先を争って手を出す時は、手の甲を上にして、上から掴もうとするはずです。

一方、順番に沿って何かを手にする時、それは配られたもの、配達されてきたものですから、手の甲を下に、手のひらを上にして受け取るはずです。

問いかけたいのは、今あなたが手にしようとしているものを、あなたは手の甲を上にして掴みと取ろうとするのですか、手のひらを上にして、大切にいただくとするのですか、どちらですか？ということです。

今週の福音朗読で、イエスは「わたしは命のパンである」(6・48)とはっきりおっしゃいました。ここで考えてみましょう。イエスという命のパンを手に入れるのに、あなたは先を争うように手の甲を上にして手を伸ばし、掴み取ろうというのですか。それとも手のひらを上にして、与えられるその時を待って、いただくのですか。どちらでしょうか。

私たちが聖体拝領をするときの動作を思い出しましょう。司祭が「キリストのおんからだ」と言って聖体をかかげます。私たちはどのように手を準備するのでしょうか。先を争って掴み取る手の出し方ですか？まさかそんな人はいないでしょう。

聖体拝領の手の形が、私たちに命のパンであるイエスとの向き合い方を教えてくれているのです。命のパンに私たちがあずかるためには、順番を待つ人のように、心を整えておく必要があるのです。もっと言うと、順番を待つことすら横に置いて、命のパンが手のひらに授けられるその時をじっと待つ。そんな心の準備が必要なのだと思います。

残念ながら朗読に登場する群衆は、手を伸ばし、手の甲を上にして、先を争って掴み取ろうとする人たちになってしまいました。手の甲を上にして争って集まる人たちから、命のパンであるイエスはこぼれ落ちていくのです。

神の恵みを待ち望む時、祈りに答えてくれる神に顔を上げる時、照らしを求めている時、苦しみの意味を教えてくださいと願っている時。あらゆる時に私たちは手のひらを上にして、手の甲を下にしていなければ、受け取り損ねるのです。

私はこれまで、命のパンをいただくためにイエスとどんな向き合い方をしてきたのでしょうか。マリアは私たちのあるべき姿を間もなく祝う聖母被昇天で示してくださるでしょう。恵みをいただくふさわしい心を準備できるよう、主に照らしを願いましょう。